



再エネの地産地活・脱炭素で地域をリデザイン 石狩市



石狩市基礎データ

総人口	57,787人 (R5.6末現在)	漁獲高	3,208百万円 (R3北海道水産現勢)
高齢人口 (高齢化率)	19,618人 33.9% (R5.3末現在)	製造品出荷額	114,798百万円 (H28経済センサス)
世帯数	28,576世帯 (R5.6末現在)	卸・小売年間販売額	168,627百万円 (R3経済センサス)
人口密度	80.0人/km ²	一般会計規模	33,000百万円 (R5当初予算)
面積	722.33km ²	市の花	ハマナス
農業産出額	4,390百万円 (R3市町村別農業産出額)		

「石狩鍋」発祥の地 石狩市

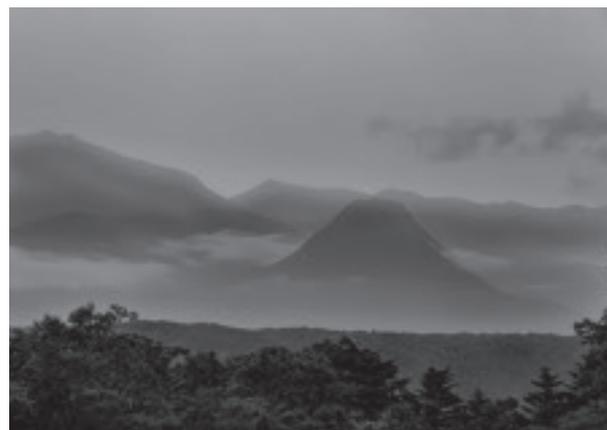
石狩市は札幌市の北側に隣接し、石狩湾に臨む水に恵まれた環境にあります。17世紀初頭の慶長年間、松前藩が石狩場所をもうけたことを機に、サケの交易で大いににぎわいました。北海道を代表する郷土料理「石狩鍋」は、石狩市が発祥の地で、漁師が作業の合間に食べる料理だったと言われています。



石狩鍋

平成8年に市制施行し、平成17年10月には厚田村・浜益村と合併しました。厚田区には、日本海に沈み行く夕日の絶景が見られる道の駅石狩「あいろーど厚田」や「恋人の聖地／

厚田展望台」などがあり、厚田港朝市には海の幸を求めて朝から多くの観光客が訪れます。また、自然豊かな浜益区には、毎年多くの登山客が訪れる「黄金山」や「浜益温泉」、さくらんぼなどの果物狩りができる果樹園などがあります。東西に28.88キロ、南北に67.04キロという地形の石狩市は、海の幸や野菜、果樹など、食に恵まれたまちです。



黄金山

現存する北海道最古の灯台「石狩灯台」は、明治25年1月1日に点灯し、100年以上にわたって、沖行く船の安全を見守ってきました。

日本映画「喜びも悲しみも幾年月」(昭和32年)の舞台になり、当時、カラー映画が出だ

した頃であったことから、色彩効果を増すために白一色の外観から赤と白に塗り替えられた、というエピソードがあります。

5年前、石狩灯台をPRするキャラクター「石狩灯台お兄さん」が誕生しました。見た目の不気味さから、じわじわとその知名度を上げています。今年6月には、小樽海上保安部より、石狩灯台の知名度向上に大きく貢献し、もって海上交通の安全確保に寄与したとして、「石狩灯台名誉灯台長」の称号を授与されました。



石狩灯台と石狩灯台お兄さん

札幌圏の物流拠点 石狩湾新港地域

昭和40年に入ってから札幌市のベッドタウンとして宅地化が進み、石狩湾新港の建設と工業団地の造成で急速に発展しました。

石狩湾沿岸のほぼ中央に位置する石狩湾新港の開発は、昭和45年に北海道開発の一大プロジェクトとして構想されたもので、令和4年の外国貿易額は2,490億円となり、輸出入ともに2年連続過去最高額を更新しています。

この石狩湾新港を核とした後背地には、総面積約3,000haの大規模工業流通団地「石狩湾新港地域」があります。札幌市の中心部から15kmの至近距離に位置し、恵まれた立地環境と港湾機能を備えるこの地域には、食品加工やリサイクル企業、大型の冷蔵設備を有する倉庫業や物流センターなど約760社が立地し、札幌圏の物流の要としての役割を強めています。現在約20,000人以上が就業し、雇用の場としても注目されています。

近年は、ホテルや大型商業施設などの立地が進み、さらに新たな人の流れをつくり出す交流ゾーンが創出されました。また、オンデマンド交通や自動配送ロボットの実証実験、ロープウェイをはじめとした新たな軌道系交通を導入するための実現可能性調査の舞台にもなっております。

このように、多様な産業集積に加え、交通モードの可能性を模索するなど、新たな価値観の工業団地に変貌しようとしています。



石狩湾新港地域（提供：石狩湾新港管理組合）

再生可能エネルギーの地産地活

また、石狩湾新港地域は、風力や太陽光、バイオマス発電などのポテンシャルが高く、多様な再生可能エネルギー（以下、再エネ）が集積する地域でもあります。

石狩市では、この石狩湾新港地域内の一部を、「REゾーン（電力需要の100%を再エネで供給することを目指す区域）」と設定し、電力の多消費産業であるデータセンター（以下、DC）の誘致を進めるなど、再エネの「地産地活」を図り、地域脱炭素と産業集積の両立を目指しています。

都市部に集中している電力需要を地方に創出することで、再エネの普及に必要な系統整備コストを縮減できるほか、DCに関連する新たな産業集積も予想されます。

北海道では、千歳市で建設される次世代半導体工場を軸とし、千歳市、苫小牧市、札幌市、そして石狩市を結ぶ「北海道バレー構想案」があり、その中でも石狩市は、再エネ100%のDC集積が期待されているところです。

このように、地域の脱炭素化を図りながら、再エネのポテンシャルを地域の優位性として、更なる産業集積を目指す施策などが評価され、石狩市は昨年、2050年カーボンニュートラルの達成に向けて、地域脱炭素の先進的な取組を進める地域として国から「脱炭素先行地域（第1回）」に選定されました。

石狩湾新港地域に集積する再エネを石狩湾新港地域内で活用し、脱炭素と同時に産業の成長発展を実現することで、グリーントランスフォーメーションの先導を目指します。

地域循環共生圏の実現に向けて

石狩湾新港地域は、恵まれた風況や開発等を支援する港湾機能、都市部に近接するといった地理的な優位性から、国内でも有力な洋上風力発電の開発候補地であります。

港湾区域では、今年12月の運転開始に向けて、洋上風力発電施設の建設が始まっており、一般海域については、今年5月にいわゆる

「再エネ海域利用法」に基づく「有望な区域」に整理されたところです。今後は、国や北海道、関係する自治体、漁業協同組合等で構成される法定協議会で議論を重ねながら、次のステップである「促進区域」の指定に向けての取組を進めます。



洋上風力発電施設建設作業

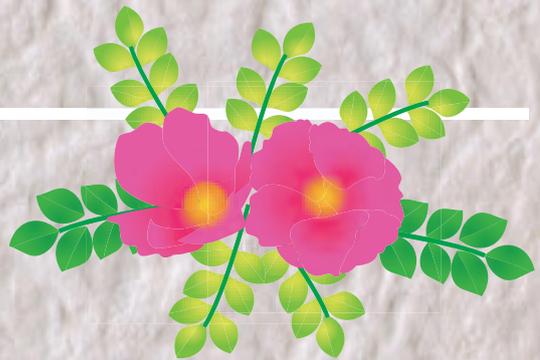
時には暴風雪などを引き起こし、生活の障壁となり得る「風」ですが、それを活用した洋上風力から生まれるエネルギーは、地域の資源です。

風力や太陽光、バイオマスなど、多様な再エネを求める産業を誘致すると同時に、これらの資源を地域課題の解決に活用し、市民生活がより豊かになるよう、域内での資金循環を図る。このような、地域活力と脱炭素が両立する地域を目指します。



望来の風景

石狩市の四季



【春】戸田記念墓地公園の桜



【夏】石狩浜海水浴場(あそびーち石狩)



【秋】石狩灯台



【冬】白銀(しらがね)の滝